



モンゴルでは、毎年7月11、12日にナーダム（遊び）と呼ばれる祭りが各地で開催される。

ナーダムは、この世の衆生を教え導くために化身として姿を現した「活仏」の長命を願うため、モンゴル諸侯が集まって行われた宗教行事が一般化したものといわれる。チンギス・ハーンの時代より、軍事教練の役割も果たしてきた相撲、競馬、弓射が行われ、中でも競馬は伝統文化に根差していることもあり、大きな盛り上がりを見せる。

騎手を務めるのは5〜13歳の子どもたち。短距離でも18キロ、長距離になると28キロもの過酷なレースに臨む。危険が伴い、けがをしたり、命を落としたりする馬もいるが、「競技に参加できることは大きな名誉である」とモンゴル人は胸を張る。

地平線のかすかな点のような馬群が、土ぼこりを舞い上げながら見る見るうちにゴールに迫って来ると、会場の興奮は最高潮に達する。優勝馬の周りには栄誉にあずかろうと大勢の人が群がり、馬の汗をぬぐう。馬主は馬を落ち着かせるため、歌を歌って労をねぎらい、祝福の馬乳酒を振りかける。

春 夏
秋 冬
10

7月11・12日 ナーダム

騎馬民族の雄大な祭り

